

カルメルの小窓（2011年3月）

イエスの聖テレサ教会博士（アヴィラの聖テレジア）

《彼女の略歴》（No.3）

1576年2月、テレサとカルメリットたちがセヴィリアの異端諮問官たちに疑いをかけられたために、一つの報告を聴罪司祭であったイエズス会のロドリゴ・アルバレス師に書き上げて提出する（報告4）。その後、3月ごろにもこの師にもう一つの報告をする（報告5）。

6月、カルメル会総長ルベオ修士により「一つの修道院に閉じこもるように」という命に従って、トレドの修道院に向かう。当時、トレドはテレサの創立した各修道院の中心地にあたり、ここから各修道院への情報交換を行っていたようである。

セヴィリアを出発するに当たり、ヨハネ・デ・ラ・ミセリア修士がテレサの肖像画を描く（現在、オリジナルがセヴィリア修道院に保管）。

（9月8日、アルモドヴァルにて、男子のテレサ的カルメル集団の会議が開かれる。）

11月、テレサは『創立史』27章まで書き上げる。

トレドにて、将来の司教、ベラスケス師との親交が始まる。

1577年2月、テレサは疲れ果て、手が動かなくなり医師より執筆の禁止を言い渡される。

6月2日、グラシアン修士の命とベラスケス師の同意のもとで、テレサは『靈魂の城』の執筆を始める。

（6月18日、教皇大使ニコラス・オルナメト師帰天。）

7月にカルメル修道会の命により、アヴィラのサン・ホセ修道院へ向かう。

8月31日、グラシアン修士よりテレサはアヴィラの修道生活を割り当てられる。

10月9日、カルメル会士、ヘロニモ・トスタド修士、テレサのエンカルナシオン修道院院長職の無効を宣言する。

11月29日、テレサは『靈魂の城』を完成させる。

（12月3日、十字架のヨハネ修士は、エンカルナシオン修道院の隣の男子の家でカルメル会士たちに捕まり、トレドの修道院の牢に向かう。）

12月4日、テレサはフィリペ王に十字架のヨハネ修士の救出依頼の手紙を書く。

12月24日、テレサは左腕の脱臼をする。

1578年5月、テレサは民間療法師から腕の治療を受ける。

(7月23日、新しい教皇大使フィリペ・セガ師がグラシアン修士より、教皇視察師の権限をはく奪する。)

(8月に、十字架のヨハネがトレドの修道院の牢より脱走。)

9月4or5日に総長ルベオ修士帰天。テレサは彼の死を悼む。

(9月9日、アルモドヴァルにて、男子のテレサ的カルメル集団の会議が開かれるが、10月16日に教皇大使フィリペ・セガ師がこの会議を無効にする。)

(12月20日、教皇大使フィリペ・セガ師、グラシアン修士にたいして、判定を下す。)

(1579年4月1日、男子のテレサ的カルメル集団の代理統治者として、アンヘル・デ・サラサル修士<カルメル会士>が選ばれる。)

6月25日、男子のテレサ的カルメル集団に対して、アヴィラのサン・ホセ修道院の隠遁所でテレサが勸告文を書く(報告67)。

6月25日、テレサはメディナ・デル・カンポとヴァリャドリドへ旅立つ。

(7月15日、教皇大使の助言者たちが、男子のテレサ的カルメル集団の管区設立に好意を示す。)

7月にテレサはエボラのテウドニオ卿に『完徳の道』と『アルベルトの生涯』を出版のために送る。

7月30日、メディナ・デル・カンポーアルバ・デ・トルメスーサラマンカに向かってヴァリャドリドを出発する。11月にはアヴィラに帰院。

12月8日、マラゴンのシスターたちが、新しい建物に引っ越す。このためにテレサはマラゴンへ行く。

1580年2月13日、ビジャヌエバ・デ・ラ・ハラに修道院創立のために、マラゴンを出発する(創立史28章)。

3月18日ごろ、再び左腕を脱臼。

3月20日、トレドに着き、心臓の病を患う。そこで、キログ枢機卿と出会う。『自叙伝』が彼の腕の中に留まっていた。

5月にグラシアン修士の拘束が解ける。

6月にマドリードとセゴビアに向かう。

(6月22日、グレゴリオ13世より、男子のテレサ的カルメル集団に対して、

管区設立許可の勅書が発布される。)

6月26日、兄弟ロレンソが帰天する。

セゴビアでグラシアン修士と他一名の修士が『靈魂の城』を校閲する。

7月、アヴィラに帰院。

8月、ヴァリャドリドへ向けて出発。そこで、全国的流行風邪にかかり、重くなる。

(11月22日、教皇視察師ペドロ・フェルナンデス修士帰天。その後、ヨハネ・デ・ラス・クエバス修士が受け継ぐ。)

12月28日、パレンシアの創立のためにヴァリャドリドを出発。

1581年3月3日、アルカラ・デ・エナレスで、テレサ的カルメル集団の管区設立会議が開催される。この中で、男子跣足カルメル修道団体と女子跣足カルメル修道団体の会憲が発行され、男子の管区の管区長に、グラシアン修士が選任された(創立史29章参照)。

5月26日、パレンシアの創立。

5月29日、ソリアに向けて、パレンシアを出発。

6月14日、ソリアの修道院創立。

8月23日、セゴビア到着。旅の疲れを癒す。

9月6日、アヴィラに到着。

11月28日、十字架のヨハネと最後の面会。ヨハネはグラナダの女子修道院創立にテレサを誘うが、ブルゴス創立準備のため、イエスのアンナ(ベアスの院長)と幾人かのアヴィラのカルメリットの手に託す(1582年1月20日にグラナダに女子修道院創立)。

1582年1月2日、ブルゴス創立のために、アヴィラを出発。

3月18日、アフリカのコンゴに宣教に旅立つ跣足カルメル会士に当てた手紙をしたためる。

4月19日、困難の中でのブルゴスでの女子修道院の創立。

5月7日、グラシアン修士との最後の面会。

7月にかけて、『創立史』の最後を書き上げる。この時期、マドリードの早急の創立を放棄する。

7月26日、アヴィラへの帰路に就く。アヴィラでは、姪のテレシータの誓願許可を与える予定であった(11月5日にテレシータの誓願宣立)。

9月19日、メディナ・デル・カンポからアヴィラへの途中、アントニオ修士の命により、アルバ公爵夫妻の要請にこたえるため、アルバ・デル・トルメスに向かう。

9月20日、アルバ・デ・トルメスに到着。彼女は病気であった。

10月1日に病室に移る。

10月2日にゆるしの秘跡を受ける。

10月3日、最後の聖体拝領を受け、病者の塗油も受ける。拝領後のテレサの言葉、「わたしの花婿よ、貴方との出会いの時が来ました」。

10月4日、テレサの看護係リアナ・デ・サン・バルトロメ修女の腕の中で午後9時ごろに息を引きとる。翌日、グレゴリオ暦が導入され、10月15日という日付になる。

《つつく》